

安全データシート

1. 化学物質等および会社情報

品名：フクビメント AE-1

社名：フクビ化学工業株式会社

住所：福井県福井市三十八社町 33-66 〒918-8585

TEL：0776-38-8031 FAX：0776-38-8404

作成：2014年11月10日 改定：2020年1月15日

2. 危険有害性の要約

<GHS分類>

物理化学的危険性：

いずれの項目も分類対象外、区分外、または分類できない。

健康に対する有害性：

特定標的臓器毒性（反復ばく露）：区分2 - 呼吸器、肝臓 -

その他の項目は分類対象外、区分外、または分類できない。

環境に対する有害性：

いずれの項目も分類できない。

<GHSラベル要素>

絵表示：健康有害性

注意喚起語：警告

危険有害性情報：

[H373] 長期にわたる、または反復ばく露による呼吸器、肝臓の障害のおそれ。

<注意書き>

安全対策：

[P260] 粉じん、煙、ガス、ミスト、蒸気、スプレーを吸入しない。

応急措置：

[P314] 気分が悪いときは、医師の診察、手当を受ける。

保管：該当なし。

廃棄：

[P501] 内容物、容器は、許可を受けた業者に委託して廃棄する。

3. 組成および成分情報

化学物質または混合物の区別：混合物

化学名または一般名：アクリル樹脂系エマルジョン接着剤

成分および含有量：

アクリル共重合樹脂 (CAS No. 特定できない) 25-30 %

無機質充てん剤 (CAS No. 特定できない) 40-50 %

ジエチレングリコールモノブチルエーテル (CAS No. 112-34-5) 1 - 5 %

4. 応急措置

眼に入った場合：

流水にて15分以上洗眼する。

異常のある場合は速やかに医師の診察、手当を受ける。

皮膚に付着した場合：

すぐに拭き取り、石けんと水で洗い流す。

発疹や痒みが生じた場合、医師の診察、手当を受ける。

吸入した場合：

空気の新鮮な場所へ移動して安静にさせる。

気分が悪い場合、医師の診察、手当を受ける。

飲み込んだ場合：

無理に吐き出させない。直ちに医師に連絡する。

予想される急性症状および遅発性症状：頭痛、吐き気。

最も重要な兆候および症状：知見なし。

応急措置をする者の保護：知見なし。

医師に対する特別事項：診察、手当を受ける場合は、本書や容器のラベルを見せる。

5. 火災時の措置

消火方法：

本品は不燃性。火災が発生した場合、付近の着火源を断ち、保護具を着用して風上から消火する。

消火剤：

小火災 - 粉末、二酸化炭素、泡、乾燥砂、噴霧水 大火災 - 噴霧水、泡消火剤

使ってはならない消火剤：特になし。

特有の危険性：

火災によって刺激性、毒性、または腐食性のガスを発生する可能性がある。

特有の消火方法：

付近の着火源を断つ。危険でなければ火災区域から容器を移動する。

移動不可能な場合、容器および周囲に散水して冷却する。

消火後も、大量の水を用いて十分に容器を冷却する。

消火を行う者の保護：

消火作業の際は、適切な空気呼吸器、化学用保護衣を着用する。風上から消火する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具および緊急時措置：

作業者は適切な保護具を着用し、眼、皮膚への接触やガスの吸入を避ける。

「8. ばく露防止および保護措置」の記載事項に従う。

漏洩物に触れたり、その中を歩いたりしない。

漏洩区域をロープで囲うなど、関係者以外の立ち入りを禁止する。

火災が発生していない場合、密閉性の高い、不浸透性の保護衣を着用する。

風上に留まる。低地から離れる。

密閉された場所に入る前に換気する。

環境に対する注意事項：

排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を避ける。

河川等に排出され、環境へ影響を起こさないように注意する。

回収、中和：

少量の場合、おが屑、土砂、ウエス等で吸収させ、回収する。

大量の場合、盛土で囲って流出を防止したうえで、汲み上げ、回収する。

封じ込めおよび浄化方法と機材：

危険でなければ漏れを止める。

二次災害の防止策：

全ての着火源を速やかに取り除く。近傍では喫煙、火花や火炎の使用を禁止する。

速やかに県や市町村の関係箇所に連絡する。

7. 取り扱いおよび保管上の注意

<取り扱い>

技術的対策：

「8. ばく露防止および保護措置」に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。

スプレミットの発生する作業の場合は、フィルター付きの保護マスクを着用する。

局所排気または全体換気：

「8. ばく露防止および保護措置」に記載の局所排気、全体換気を行う。液の漏洩を極力防止する。

安全取り扱い注意事項：

眼への刺激性があるので眼に触れないようにする。

容器を転倒させ、落下させ、衝撃を加え、引き摺るなどの取り扱いをしない。

取り扱いの後は良く手を洗う。

屋外または換気の良い区域で使用する。

接触回避：「10. 安定性および反応性」を参照する。

<保管>

技術的対策：容器を密閉して、直射日光、雨水を避け、冷暗所で貯蔵する。

保管条件：

冷所、換気の良い場所で貯蔵する。容器は直射日光や火気を避ける。

酸化剤から離して保管する。

保管場所は、耐火構造、床は不浸透性のものとし、地下への浸透、外部への流出を防止する。

混触危険物質：「10. 安定性および反応性」を参照。

容器包装材料：耐久性のある容器を使用する。国連容器等級非該当。

8. ばく露防止および保護措置

管理濃度：設定されていない。

許容濃度：設定されていない（日本産業衛生学会・ACGIH）。

設備対策：

貯蔵場所や取り扱う作業場近くには手洗いや洗眼ができる水道を備える。

「関係者以外立入禁止」等の必要な標識を見やすい箇所に掲示する。

保護具：

呼吸器の保護具：保護マスクを着用する。

手の保護具：ゴム手袋など不浸透性の保護手袋を着用する。

眼の保護具：ゴーグル型か側板付きの保護眼鏡を着用する。

皮膚および身体の保護具：保護長靴、不浸透性の前掛け、防護衣等を着用する。

なお、衛生対策の保護具は定期的に点検する。

9. 物理的および化学的性質

外観：灰白色粘稠液。

臭い：本品特有の臭い。

比重：1.3 - 1.4

pH：6 - 8

融点、凝固点：約 0°C。

沸点、初留点、または沸騰範囲：約 100°C。

溶解度：水に可溶。

10. 安定性および反応性

安定性：常温で暗所に貯蔵・保管された場合、安定である。

危険有害反応可能性：知見なし。

避けるべき条件：5°C以下の低温、40°C以上の高温。

混触危険物質：禁水物質。

危険有害な分解生成物：一酸化炭素、二酸化炭素。

11. 有害性情報

<ジエチレングリコールモノフェニルエーテル>

急性毒性（経口）：区分外。

ラットの LD50 値として、5,660 mg/kg (ACGIH (7th, 2013)、DFGOT vol. 7 (1996))、5,080 mg/kg (雌)、6,530 mg/kg (雄)、6,560 mg/kg (PATTY (6th, 2012))、9,600 mg/kg (給餌)、7,300 mg/kg (絶食) (ACGIH (7th, 2013))、9,623 mg/kg (給餌)、7,292 mg/kg (絶食) (PATTY (6th, 2012))、EU-RAR (1999)、ECETOC TR 64 (1995)) との報告あり。

急性毒性（経皮）：区分外。

ラットの LD50 値として、> 2,000 mg/kg (DFGOT vol. 7 (1996))、ウサギの LD50 値として、2,764 mg/kg (PATTY (6th, 2012))、EU-RAR (1999)、ECETOC TR 64 (1995))、3,000-4,000 mg/kg (DFGOT vol. 7 (1996))、4,000 mg/kg (PATTY (6th, 2012)) との報告あり。

急性毒性（吸入：ガス、蒸気、粉じん、ミスト）：分類できない。

データ不足。ラットに飽和蒸気 (28.8 ppm) を 7 時間ばく露した結果 (4 時間換算値：38.1 ppm)、死亡例なしとの報告あり (EU-RAR (1999)、ECETOC TR 64 (1995))。

皮膚腐食性または皮膚刺激性：区分外

本物質（未希釈）をウサギまたはモットに適用した結果、軽度の刺激性がみられたとの報告 (PATTY (6th, 2012)) や、ウサギの皮膚に長期間または反復適用した結果軽度の刺激性がみられたとの記載あり (ECETOC TR64 (2005)、BUA 204 (1997))。EU-RAR (1999) は、ウサギまたはラットを用いた経皮への反復投与 (2000mg/kg) で影響がみられなかったことから皮膚刺激性の区分はつかないと判断 (EU-RAR (1999))。詳細は不明ながらヒトに対する原液のパッチテストの結果、何人かに紅斑がみ

られたとの報告あり (DFGOT vol. 7 (1996))。

眼に対する重篤な損傷性または眼刺激性：区分 2A

ウサギの眼に本物質 0.1 mL を適用した結果、中等度の眼刺激性が認められたが 14 日以内に回復 (ECETOC TR 64 (1995)、ACGIH (7th, 2001)、PATTY (6th, 2012)) との報告。本物質は、EU CLP 分類において「Eye. Irrit. 2 H319」に分類 (ECHA CL Inventory (Access on June 2015))。

呼吸器感作性または皮膚感作性：分類できない。

データ不足。結果の詳細等不明ながら、モットを用いた Maximization test において感作性はみられなかった (ECETOC TR. 64 (1995)、BUA 204 (1997)) との報告や、感作性がないとの試験報告 (EU-RAR (1999)) あり。

生殖細胞変異原性：分類できない。

in vivo では、マウス骨髄細胞の小核試験で陰性 (DFGOT vol. 7 (1996)、EU-RAR (1999)、ACGIH (7th, 2013)、PATTY (6th, 2012))、in vitro では、マウスリンフォーマ試験で弱陽性の結果はあるが、それ以外の試験、すなわち、細菌の復帰突然変異試験、哺乳類培養細胞の染色体異常試験、遺伝子突然変異試験、不定期 DNA 合成試験で陰性 (ACGIH (7th, 2013)、DFGOT vol. 7 (1996)、EU-RAR (1999)、PATTY (6th, 2012))。

発がん性：分類できない。

国際機関による分類もされておらず、データ不足。

生殖毒性：分類できない。

ヒトの生殖影響に関する情報なし。実験動物では、本物質をラットの雌雄いずれかに交配前から強制経口投与し、非ばく露のペアと交配させた 1 世代試験において、1,000 mg/kg/day までの用量で、雌雄親動物の繁殖能への有害影響はみられなかったが、1,000 mg/kg/day の F1 出生児に哺育期後期の体重増加抑制がみられた (EU-RAR (1999))。また、ラットに交配前 13 週間、および雌は妊娠 20 日まで、2,000 mg/kg/day を経皮適用した 1 世代試験でも雌雄ともに繁殖能への有害影響は認められなかった (EU-RAR (1999)、ACGIH (7th, 2013))。一方、発生毒性影響としては、妊娠雌ラットの器官形成期 (妊娠 6-15 日) に強制経口投与した発生毒性試験において、母動物の 25% が死亡する高用量 (2,050 mg/kg/day) まで投与しても、新生児の出生数、生後 3 日までの生存率、体重推移に影響はみられなかった (催奇形性の有無は評価対象外) との記述、並びに妊娠雌ラットの全妊娠期間を通して混餌投与した催奇形性試験では、母動物に体重増加抑制がみられる用量でも、出生前後の発生影響はみられなかったとの記述あり (EU-RAR (1999)、ACGIH (7th, 2013))。また、妊娠ウサギの器官形成期 (妊娠 8-19 日) に閉塞経皮適用した催奇形性試験において、母動物に統計的に有意ではないが体重増加抑制の傾向がみられ、皮膚刺激性が観察される用量まで投与したが、胎児には奇形も含めて発生毒性はみられなかったとの記述あり (EU-RAR (1999)、ACGIH (7th, 2013))。実験動物では経口および経皮の 2 経路で、親動物の繁殖能への有害影響、および奇形を含む発生毒性影響は概ね生じないと考えられるが、経口経路のラット 1 世代試験では高用量群の出生児に哺育期間中の成長抑制を示唆する結果も得られており、「区分外」とするにはヒトの知見も含めてデータが不十分。

特定標的臓器毒性 (単回ばく露)：区分 3 - 麻酔作用 -

ヒトに関する情報なし。実験動物では、ウサギへの区分 2 相当の 2,000 mg/kg 経口投与で死亡が発生し、1,060 mg/kg で腹臥位、一過性の無緊張、脱力状態、呼吸促進、麻酔症状、腎臓傷害がみられた (DFGOT vol. 7 (1996))。また、本物質は経口および経皮経路で急性毒性は弱いとの情報、マウス、ラットの経口投与で、死亡前の毒性徴候は活動低下、努力呼吸、食欲低下、衰弱、振戦である

が、その用量は区分 2 を超えること、ウサギの経皮ばく露で、食欲低下、腎臓肥大、腎盂の褪色、胸腺における浮腫や出血性傷害がみられたが、その用量は区分 2 を超える (EU-RAR (1999))。以上より、ウサギの経皮ばく露で腎臓への影響が考えられるが、区分 2 を超える用量範囲のため、腎臓を区分対象としなかった。その他の所見は、麻酔作用によるものであるため、区分 3 (麻酔作用)。

特定標的臓器毒性 (反復ばく露) : 区分 1 - 呼吸器、肝臓 -

ヒトに関する情報はない。実験動物では、ラットを用いた 5 週間吸入毒性試験において、117 mg/m³ (ガイトンス値換算 : 0.0325 mg/L) で肝臓の相対重量増加、肝細胞脂肪変性がみられている (EU-RAR (2000))。また、ラットを用いた 2 週間吸入毒性試験において、100 mg/m³ (ガイトンス値換算 : 0.011 mg/L) で血管周囲および気管支周囲の顆粒球白血球の細胞浸潤、細気管支化、肺重量増加がみられている (EU-RAR (2000))。これらはいずれも区分 1 の範囲でみられた。なお、血液系 (赤血球) への影響として溶血がみられたが区分 2 の範囲を超える用量。ラットを用いた 6 週間強制経口投与毒性試験において、溶血性貧血、肝臓重量増加、前胃の角化亢進、棘細胞増生がみられ (EU-RAR (2000)、PATTY (6th, 2012)、DFGOT vol. 7 (1996))、13 週間飲水投与毒性試験において溶血性貧血、肝臓重量増加がみられた (PATTY (6th, 2012))。これらは区分 2 の範囲を超える用量であった。ラットを用いた 13 週間経皮投与毒性試験において、全身影響はみられていない (EU-RAR (2000)、PATTY (6th, 2012))。

吸引性呼吸器有害性 : 分類できない。

データ不足。HSDB (Access on June 2015) に記載された数値データより、動粘性率計算値は 0.069 mm²/sec (20°C) (粘性率 : 0.0649 mPa·s ; 密度 (比重) : 0.9536) と算出。

12. 環境影響情報

<ジエチレングリコールモノフェニル>

水生環境有害性 (急性) : 区分外

藻類 (セネツクス) 96hr EC50 > 100 mg/L、甲殻類 (オミジッコ) 48hr EC50 > 100 mg/L、魚類 (ブルギル) 96hr LC50 = 1300 mg/L (いずれも EU-RAR, 1999) より、区分外。

水生環境有害性 (長期間) : 区分外

信頼性のある慢性毒性データは得られていない。難水溶性ではなく (水溶解度 = 1000000 mg/L、PHYSPROP Database 2009)、急性毒性が区分外であることから、区分外。

ガソリン層への有害性 : 分類できない。

データなし。

魚毒性 :

河川等に流出した場合は、エマルジョンの中の樹脂の粘着による呼吸困難のため、魚類が死亡する場合が考えられる。

13. 廃棄上の注意

内容物や残渣、空容器は、産業廃棄物として許可を受けた専門業者に処理を委託する。

洗浄水等の排水は凝集沈殿、活性汚泥等の処理により、清浄にしてから排出する。

14. 輸送上の注意

陸上規制情報 : 消防法の規定に従う。

海上規制情報 : 船舶安全法の規定に従う。

航空規制情報：航空法の規定に従う。

国連番号：非該当

国際輸送品名：非該当

クラス：非該当

容器等級：非該当

海洋汚染物質：非該当

特別の安全対策：

容器漏れの無いことを確かめ、転倒、落下、破損の無い様に、積み込み、荷崩れ防止を行う。

その他、「7. 取り扱いおよび保管上の注意」の項の記載に従う。

15. 適用法令

消防法（危険物） - 非該当。

毒物劇物取締法（毒物または劇物） - 非該当。

化学物質管理促進法（第一種または第二種特定化学物質） - 非該当。

悪臭防止法（特定悪臭物質） - 非該当。

労働安全衛生法（表示および通知すべき危険有害物） - ジェチレングリコールモノフェニル

16. その他の情報

ホルムアルデヒド発散等級表示：JIS F☆☆☆☆（JQA JQ0607014 JIS A5536 NTP）

4VOC発散基準表示：4VOC基準適合（日本接着剤工業会登録 JAIA-505770）

引用文献：

国際化学物質安全性カード（国際医薬品食品衛生研究所）

15107の化学商品（化学工業日報社）

化学物質総合情報提供システム（独立行政法人製品評価技術基盤機構）

本書は現時点で入手できる資料、情報、データに基づいて作成していますが、法令の改正や新しい知見により改定することがあります。本品の使用にあたっては、使用者の責任において適切な安全対策を実施したうえで使用してください。本書は情報を提示するもので、安全や品質を保証するものではありません。